



ロダンを訪ねて-庭園風景1(ロダン美術館庭園)

ロダン美術館はフランス政府が所有して「ピロン邸」をロダンがこの建物に居住する条件に全ての作品をフランス政府に寄贈することと彼の死後、美術館にすることで居を構えました



ロダンを訪ねて-庭園風景2(ロダン美術館庭園)



ロダンの作品には彫刻家で弟子のカミーユ・クローデルをモチーフにしたものがあります
床に伏した彼女の背中の滑らかな肌のぬくもりを感じる彫刻
ロダンとカミーユは師弟の関係をこえて激しく愛し合うようになります
彼女も彫刻家としての才能はあったもののロダんに隠れて
その才能を世間に理解してもらえないもどかしさとロダンとの関係で
やがてカミーユは精神を病み悲しい最期を迎えます

彼女自身の息を呑むほどの美しさと果かなさを書籍や映画で味わってください

書籍：カミーユ・クローデル(アンヌ・デルベ、渡辺守章訳) 文芸春秋

映画：カミーユ・クローデル(カミーユ：イザベル・アジャーンニ、ロダン：ジェラルール・ドパ
ルデュー)

美術館入り口の風景(オルセー美術館)

鉄道の駅を美術館にした「オルセー美術館」

中央に日本髪を着物をきた？女性の彫刻があります

浮世絵などの版画で日本の作品がもてはやされた時期でもありました

彼らが目にしたのは日本の陶器を船便で輸出する際、壊れないように緩衝材として入っていた版画の紙が日本美術をヨーロッパに紹介されるきっかけにもなったようです

この当時の油絵を見ると、着物を羽織ったモデルや扇子や壁に浮世絵などの「日本びいき」が反映されています





楕円形の美術館「オランジュリー美術館」
やわらかな採光で「睡蓮」のみずみずしさを味わえます



タペストリーに魅せられて（クリュニー美術館）



古代の浴場跡とクリュニー修道院跡の美術館

外観の地味な建物からは想像も付かないほどの多くのキリスト教にまつわる手書きの聖書

一文字一文字手書きの文字と挿絵が見事です

そして「貴婦人と一角獣」のタペストリーが見事です

薄暗がりに浮かび上がるゴブラン織りの立体感に圧倒されます

バスの車窓から1



街めぐりのバスツアーの車窓から



コンコルド広場
遠景にオベリスクも見えます

夕食はデパートの食材で1



有名レストランでの食事もいいですがデパートで食材を買って

ホテルで晚餐も楽しいですよ

材料は2人前です

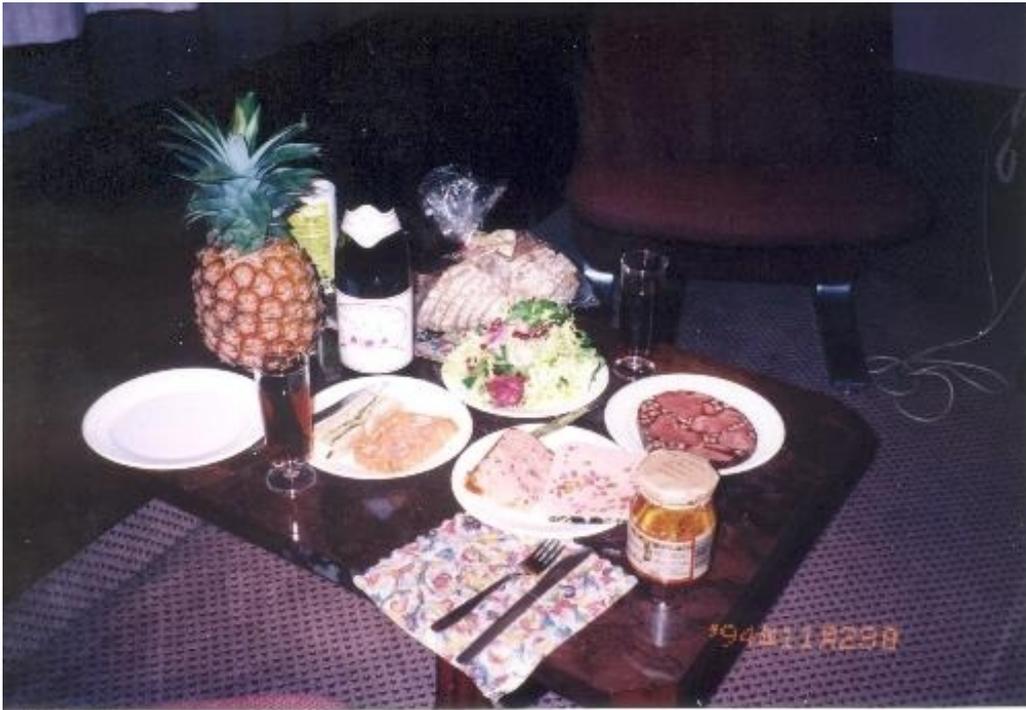
カナッペ：えび、ズッキーニ、サラミ、サーモン、卵、肉のテリーヌ

夕食はデパートの食材で2



秋にはボジョレー・ワインも格安で味わいを楽しめます

夕食はデパートの食材で3



ハムやソーセージ、サラダも購入して結構豪華ですね
ナイフとフォークはヴァージン航空の機内品をいただきました(*_*)



紙幣はその国の文化とアイデンティティーの象徴だとおもいます
ユーロになって大事なものを捨てたのではないのでしょうか
フランス国民だけでなく世界中で愛されているアントワーヌ・ド・サンテグジュペリの肖像と
星の王子様とサンテグジュペリが開拓したアフリカでの航空郵便路線が描かれています

あとがき

最後まで見ていただきましてありがとうございます。

この写真は90年代に訪れたパリの風景写真です。

前回の「もうひとつもルーブル美術館」とあわせて観ていただくとより楽しんでいただけるのではないかと思います。

デジカメのない頃の画像なのでクリア出ない分、

「ぼやけた柔かな質感が味わい深いかな」と勝手に感想を持っています。

感想を寄せていただければ幸いです。